歯車

学校だより
河北町立西里小学校
令和二年十二月二十八日

年の暮れに

校長　舩山　聡

令和二年三月三日から始まった臨時休業。その中で行われた卒業式は、十分な練習もできず、御来賓の方々もお呼びできませんでした。それでも、卒業生は集中して式に臨み、卒業証書をしっかり抱えて巣立っていきました。なんとかして門出式もしてあげたいという先生達の思いもあり、校舎の中で少しだけ間をとりながら、廊下の両端に並んだ一年生から五年生とすべての教職員が、拍手で卒業生一人ひとりを見送りました。西里小を去られる先生とのお別れの離任式はありませんでした。令和二年度の入学式は、十四人の新入生を保護者と担外の先生だけで迎えました。今年はＰＴＡ活動を中止し、主要な学校行事をかろうじて行うことで精一杯でした。

令和二年度の二学期が終わり、年の暮れを迎えています。

子ども達は三密を意識し食事以外はマスクをつけ、様々な感染対策に努めてきました。ただ、臨時休業していた頃よりも今の方が、この感染症は、はるかに私たちに近づいています。山形県でも連日感染者が確認され、もうそこに河北町の名前が出ても、驚かない自分がいます。

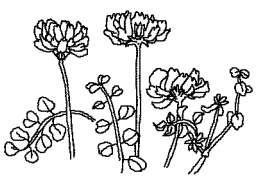
また、先にコロナの感染が大流行していた世界では、イギリスやドイツ、イタリアなど、年の暮れに再びロックダウンして街中を閉鎖しています。格段に感染力の強いコロナウイルスの変異という新たな危機も、すでに日本で確認されました。コロナウイルスだけでなく、トリやブタに感染する他のウイルスも、まるで共鳴するかのように活発になっています。

延期になった東京オリンピック、パラリンピックが来年の夏に計画されています。やがてワクチン接種も始まることでしょう。現時点では、令和三年度の西里小学校の教育活動やＰＴＡ活動も通常に戻す予定です。

しかし、できるかどうか。そう遠くない時期にわかるだろうと考えています。密閉、密集、密接しても、大丈夫な日本に戻れるか。

「歯車」四月号の最後に、私はなんとなく、こんな事を書きました。

> いつしか桜も散ってしまいました。
> 長く記憶に残る時代となります。
> この時代は、これからの子ども達の生き方に、
> おおきな影響を与えることになると考えています。



コロナ禍の時代を生きる意味があるはずです。新年を迎えるにあたり、新型コロナウイルス感染防止の意識を改めて強くもち、どこにいても家族みんなが健康に暮らせるように願い、力を合わせて生きる大切さとあたりまえの生活のありがたさを祈りながら、除夜の鐘を聞きたいと思います。

未だ治まらない世界に、立ちふさがる様々な課題が子ども達を取り囲んでいます。子ども達を決して不安にさせてはなりません。「大丈夫だよ。」と笑顔で声をかけながら、私たちは、ここからが勝負と考えています。先を見すえて、職員一丸となって、里の子を育ててまいります。

気象庁から警報級の年越し寒波の予報が出されています。想定外の雪や寒さになるかもしれません。ケガや事故などに十分ご注意ください。

地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご協力に深く感謝致します。今年も里の子達を温かく見守っていただき、誠にありがとうございました。

どうぞ、よいお年をお迎えください。